

●平成29年度推薦入学試験についての講評

1 小論文

(1) 方法

将来日本の労働人口の約半分が人工知能（AI）やロボットに置き換えられるという予想があるなか、これからの社会の中で人間が果たすべき役割について述べた新聞記事を示し、受験生には記事の内容をふまえた上で、将来自分が社会に出て活躍するために、大学在学中に自分がどのようなスキル（技術）や能力を身につけたいか、またそのためには具体的にどのようなことに取り組むべきかを問うた。

この問題は、本学のアドミッションポリシーに従い、本学で学ぶ学生には、日ごろから社会の問題や動向に目を配り、またそれを自分の問題として主体的に探究・解決していく姿勢をもってもらいたいという観点から作成した。

(2) 結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文の内容を適切に理解し、②理由や根拠を示した上で自分がどのように考えるのか、さらにその考えに基づき③具体的にどのように行動するのかが、バランスよくまとめられているかどうかである。

そのため、まず課題に即して自分の考えや具体的な取り組みが書けていない論文は低い評価となった。さらに、極端に字数が足りないもしくはオーバーしている論文、また①②③のいずれかのみに着しく偏っている論文、①②③を通しての主張に一貫性がない論文も低い評価となった。それに対し、①②③についての自分の考えが適切な字数で論理的にまとめられている論文は高い評価となった。

また、誤字脱字が多い文章、乱筆や字が小さすぎ判読に困る文章、段落がない文章などが散見されるため、作文の基本を守った読みやすい文章であることも求められる。

2 グループ面接

(1) 方法

事前（受験票送付の際）に、課題に関する「キーワード」を提示し、キーワードについて十分勉強してきたという前提で、自分の意見を理解しやすい形で発表できるか、グループ討議に建設的に参加しようとしているか、対立軸を設定して双方の立場から適切な状況把握ができるか、などの観点で評価した。

今回は「外国人労働者の受け入れ拡充について、あなたが考える良い影響と懸念される問題等を挙げた上で、今後問題を解決しながらよい影響を広げていくにはどのようにすればよいか」を討論の課題とした。

事前に送付したキーワードは、「人口減少社会、移住労働者の権利条約、ヘイトスピーチ、異文化理解、英国のEU離脱」であった。

(2) 結果に関する講評

評価基準は、①表現する力（キーワードの的確な理解を前提に自分の意見を論理的かつ的確に伝える力）、②面接の態度（他人の発言を十分に理解できるよう真摯に聞き、積極的にかつ意欲的に討論に参加する態度）、③適性（議論の展開を発展させる発想、対立軸となる考え方を踏まえた多角的検討力など）

である。

グループ面接の結果、キーワードについてしっかりと学習してきた受験生、課題にきちんと答えようとした受験生は、具体例なども豊富に示して、適切に発言することができ、評価も高かった。積極的に議論に参加し、説得力のある発言ができる受験生や議論をリードする力を持っている受験生も高い評価となった。また、他の受験生の意見に新たな情報を加えたり、その意見を別の見地から発展させるような議論を深める態度は高く評価された。

一方、キーワードの学習が不十分だったり、課題とは無関係な方向に論点が外れたり、他のメンバーの意見を聞かなかつたりして、議論の流れをつかんだ発言ができないような受験生も見受けられた。課題や他者の意見を踏まえない発言は評価できない。他のメンバーに促されても意見が言えない、あるいは他のメンバーの意見に賛同するだけの受験生も見られた。消極的な態度は評価できない。キーワードをしっかりと学習し、提示された課題や他のメンバーの意見も踏まえた上で、積極的に自己の主張を展開してもらいたいと思う。

3 個人面接

(1) 方法

1人約20分面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

① 表現する力

自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。

② 面接の態度

相手の発言を真摯にきく態度であるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。

「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価した。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

① 「表現する力」に関するコメント

アピール・ポイントや自分の良さを自分の言葉で表現できる受験生には高い評価が与えられている。アピール・ポイントとして特別な成果や成績があれば素晴らしいことだが、高校生として勉強、部活動、生徒会、学校行事などで日頃から努力していることや、地域社会の一員として地域に貢献していることがあれば是非アピールしてもらいたい。反対に、質問の趣旨を理解できていない、話の内容が抽象的・表面的で具体性に欠けている、論理的思考力が不足しているなどの場合には、評価が低くなっている。

② 「面接の態度」に関するコメント

落ち着いて丁寧な受け答えができ、質問に対して臨機応変に対応できれば、高い評価が得られることは間違いない。また、緊張していても、真面目な態度で明るく誠実にハキハキと対応できれば高く評価されている。

③ 「適性や意欲」に関するコメント

本学のアドミッション・ポリシーやカリキュラム、学びの特色（リベラル・アーツなど）について、十分に理解しておく必要がある。学びたい科目については勿論のこと、専門課程（言語・文化、メディア・コミュニケーション、国際政治経済という3専攻）と教養課程（グローバル人材養成プログラムと現代教養科目群）の大枠の理解も不可欠である。本学の教育内容に対する理解が十分でないと、なぜ本学に入学したいのかという志望動機や入学目的が不明確となる。また、本学で何を学び将来何がしたいのかという将来の展望や、社会に対する高い問題意識をもって面接に臨んでほしい。志望動機と本学のカリキュラムとの繋がりが不明である場合や、視野が狭く、英語以外の分野への関心が希薄である場合、入学の熱意に欠ける場合などは、評価が低くなっている。